

**[年度]** 平成26年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

**[成果情報名]** ニホンジカの生態調査に基づいた効率的捕獲技術

**[要約]** 有田地域では、ライトセンサスにより多くのシカが見られる未利用造成地に3頭以下の集団が複数出没するため、4×4mの囲いワナを設置し、ヘイキューブによる十分な餌付けを行うことで、1~3頭ずつくり返して捕獲できる。

**[キーワード]** 鳥獣害、ニホンジカ、ライトセンサス、餌付け、捕獲

**[担当機関]** 果樹試験場 環境部

**[連絡先]** 電話 0737-52-4320

**[専門分野]** 果樹

**[分類]** 普及

**[背景・ねらい]**

ニホンジカ（以下シカ）による農林業被害対策の一環として、捕獲により頭数を大幅に削減することが和歌山県特定鳥獣保護管理計画に記載されているものの、銃猟者の減少は避けられない状況下にある。そのため、銃に依存しないシカの効率的な捕獲技術を早急に開発する。

**[成果の内容・特徴]**

1. 捕獲場所の選定にはライトセンサスが有効で、有田地域ではシカは夜間に未利用造成地と耕作放棄地に集まっている（図1）。
2. 飼料のヘイキューブ（牧草を押し固めたもの）はシカの嗜好性が高く、誘引エサに適する（データ省略）。
3. 出没するシカの集団は、ほとんどが3頭以下と小規模であり（図2）、捕獲には4×4m程度の小型の囲いワナが適している。
4. 囲いワナ内に、シカが複数頭入り誘引エサを食べ続けるまで十分に餌付けできていることをセンサーカメラ等で確認したのち捕獲を開始すると、捕獲されたシカを囲いワナの外から見ているシカをも1~3頭ずつくり返し捕獲することができる（図3）。

**[成果の活用面・留意点]**

1. ニホンジカの生態は地域性が強く、和歌山県内でも地域によって食性や集団規模が異なるため、捕獲に際してはライトセンサスや予備的な餌付けで捕獲場所の適否を確認する。
2. ライトセンサスは、ハンディタイプかつ高輝度（1,000 Lumen以上）のLEDライトやサーチライトを用いると、シカの判別が容易。
3. ヘイキューブは30kgで2,500円程度。
4. カンキツの枝葉はヘイキューブと同程度の好んで食べるため、捕獲を実施する前に周辺のカンキツ園は防護柵を設置し適切に管理する。また、カンキツの剪定枝は適切に処分する。

[具体的データ]

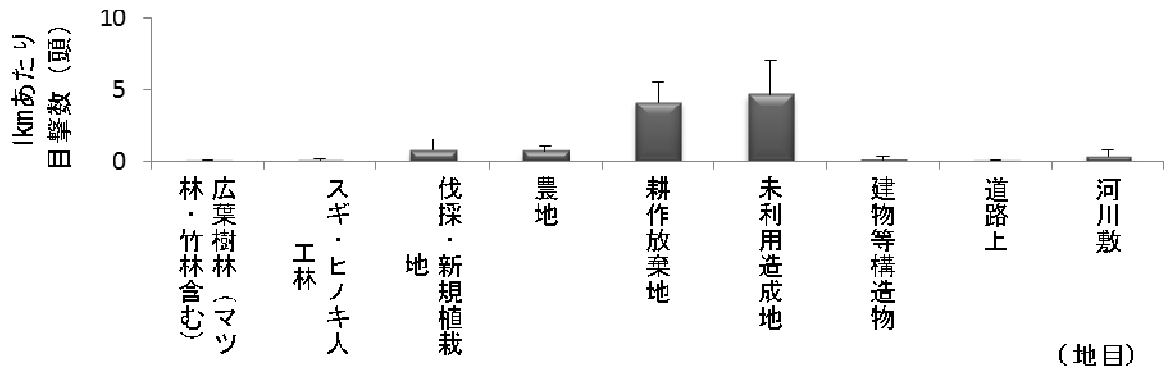


図1 有田地域のライトセンサスにおける地目別のニホンジカ目撃数

注) エラーバーは標準偏差を示す

調査方法: ライトセンサスは H24 9 月～H25 9 月に 27 回 (隔月 3 回/月) 実施した。決まったルート 37.4 km (広川町～有田川町～湯浅町) を、日没 1 時間後から時速 10 km 程度で走行する自動車から高輝度ライトを用いて目視で探査した。地目は 100m おきに目視で占める割合が高いものに分類した。

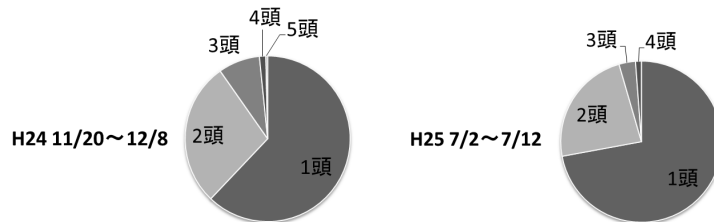


図2 ニホンジカのエサ試験において同時に撮影された頭数の割合

注) 使用エサ: ヘイキューブ, 米ヌカ, 圧片トウモロコシ

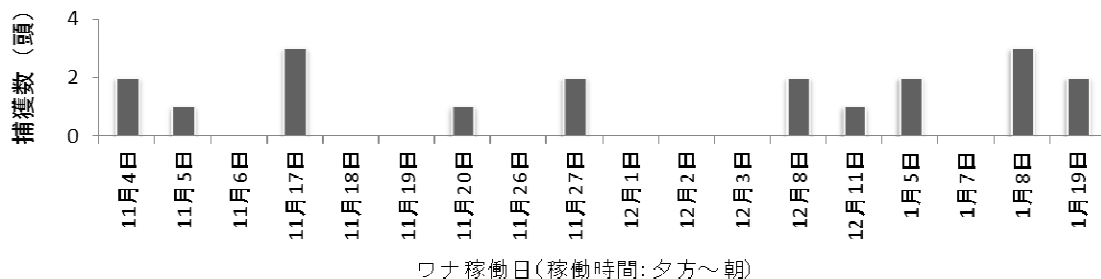


図3 有田調査地におけるニホンジカ捕獲状況

注) 捕獲期間: H26 11/4～H27 1/20 (18 晩稼働、19 頭捕獲)

試験方法: ニホンジカ目撃数の多かった未利用造成地に、囲いワナ (竹森鐵工社製サークルD 4×4m) を H26 10/20 に搬入し 10/24 に組立てた。囲いワナ内のヘイキューブに餌付いたのを確認したのち、イノシシ用電子トリガー (開発中) を 10/29 に設置し 11/4 から稼働させた。餌付けは H26 10/20～H27 1/20 の平日に可能な限り実施したところ、10/24 に囲いワナ内部にシカが複数頭入りエサを食べた。(H24～26 に時々試験でエサを使用したため餌付け期間が短縮された可能性がある)

[その他]

研究課題名: 難防御獣類の安全で効率的な捕獲手法の開発

予算区分: 県単

研究期間: 平成 24～26 年度

研究担当者: 法眼利幸、植田栄仁、森下年起

発表論文等: なし

ホームページ掲載の可否: 可